

『VISTA English Communication I New Edition』 一学んでみたくなる、魅力ある教科書を目指して



『VISTA』シリーズ代表著者

昭和女子大学 金子 朝子

はじめに

来年の4月から「コミュニケーション英語Ⅰ」の教科書として、改訂版『VISTAⅠ』を多くの高等学校でご使用いただけることを大変嬉しく思います。『VISTA』は、英語の基礎的・基本的な知識やスキルの習得に徹した教科書です。しっかりとした基礎・基本を土台としたコミュニケーション能力の育成を図り、自然とさまざまな人々との共生を国際理解の基本理念として、グローバル時代に適応できる国際感覚や協調の精神を育成したいと考えています。

そのために、時代を超えた新鮮で多様な題材を揃え、教えやすく学びやすい教科書の構成を心掛けています。そして、さまざまなレベルの英語力を持つ生徒の指導に対応できるように工夫した教科書でもあります。

『VISTA』の編集方針

小学校からスタートする、英語を通してコミュニケーション能力を身につけることを目標とした英語教育の最終段階が、高等学校です。高等学校では、学習指導要領に示されているように、ディベートやディスカッションができる英語運用力を目指してはいるものの、特に中学校で学んでおくべき基礎・基本がまだしっかり身につけていない生徒にとっては、まずは、土台を固めることが最終ゴールへの第一歩ではないでしょうか。『VISTA』は、「コミュニケーション英語基礎」の学習内容もカバーする『Ⅰ』から『Ⅱ』へと進む中で、生徒が中身を知りたくなるような題材内容を揃え、英語に触れることが楽しいと思ってもらえる教科書作りを大切にしています。

高校生にとって、日本語でもそうたやすいことではないコミュニケーションを、外国語の英語で行うのですから、英語への興味が高いとは言えない生徒

にとっては、英語は、「どうせ苦手だから」とか「嫌いだから」と、初めから学ぶことを諦めている科目になってしまっているのではないのでしょうか。しかし、単に英語話者と同じ様に話す力が英語のコミュニケーション能力ではありません。ジェスチャーや表情などの言語外の手段を交えて、言い換えたり、説明したりするなどの言語的な工夫をしながら、伝えたいことを相手に英語で伝え、理解してもらう力を指します。もちろん、話す場合だけでなく、書く場合も同様です。絵や図表なども利用して、自分の考えや意見を読み手に理解してもらう力がコミュニケーション能力です。時には日本語を交えてのコミュニケーションが必要なこともあるでしょう。

アジアの多くの国々では、そこに住む人々の母語が異なるため、コミュニケーションをとるためにどうしても共通語として英語を使う必要があります。これから『VISTAⅠ』で勉強する高校生たちが社会で活躍する頃には、英語圏の人々とはもちろん、日本国内外でもアジアの人々とのコミュニケーションが欠かせない時代となっているはずで、英語力は必須です。

教室内とは違う社会でのコミュニケーションは、自分の言いたいことを正確にそして適切に伝え、相手の意見や考えをきちんと理解することが目的です。自分の考えや意見をしっかり持ち、それを明確に伝えること、また、相手の考えや意見を受けて適切なフィードバックをすることなど、言葉を中心としたメッセージの伝達が正しくできるようになれば、いずれはディベートやディスカッションへと繋がっていくはずで、

「生徒の中には、教師の発音やモデルリーディングを聞けばその通りに英語が口から出てくるのに、自分だけでは英語の文章を読むことができない人がいる」という話を先生方から耳にすることがあります。

音読は、英語学習の基本の基本なのですが、例えば、英語を聞いてそれに答える練習に偏ると、自分一人の力では音読ができない生徒が出てしまうのかもしれないように、4技能やそれらを統合した練習をバランスよく配分し、基礎・基本となる事項を練習できるように工夫しています。各課の初めには、導入に使っていただくための1ページを割いたlisteningのセクションがあり、英語の短い解説を聞いて、簡単な質問に答える練習をします。本文は各セクションごとに1ページにまとめられています。内容を理解するreadingの補助としては、新出文法項目を用いた英文にはマークを付け、各課の最後に文法解説があるのに加えて、本文の上部には「Reading Point」が日本語の吹き出しで入っています。テキストの音読CDは、もちろんlisteningやwritingに活用できます。また、内容についての簡単な「Q & A!」はspeakingとwritingの補助として、また、各セクションの脚注にある、本文からアクセントやイントネーション、ポーズ、リエゾンなどに留意したい部分を取り出した練習「SAY IT!」は、発音練習や音読の補助として利用していただけます。

題材内容に興味を持ち、レベルに応じた練習形態を活用して基本的な練習を重ね、少しずつ応用問題にチャレンジしながら成功体験を積むことで、自然に英語への抵抗感が興味へと変わっていくことを期待しています。

改訂版のポイント

●題材について

『VISTA』は、話題性のある題材が豊富なことが、その特徴のひとつです。現行版『VISTA』で扱っている、日本の江戸文化から浮世絵に描かれた楊枝に注目した「Toothbrushing in Edo」や、私たちの暮らしに役立つ自然界からの恩恵を扱った「Ideas from Nature」などに加えて、次のような新しい題材が仲間入りし、さらに新鮮で多様な話題が揃いました。

慶良間諸島国立公園の青い海を扱った「Kerama Blue」、外国人の目からとらえた日本の文化に関する「Cool Japan」、最近日本でも味わえるようになったメキシコ料理の歴史と人気の謎を語る「Mexican Dishes」、意外に知られていない近代オリンピックの移り変わりを知る「The Olympics」、世界中から観光

客が集まるインカの遺跡マチュ・ピチュの不思議と魅力を扱った「Machu Picchu」、そして世界を変えたスティーブ・ジョブズの私たちへのメッセージを紹介する「Steve Jobs」の6つが、新しい題材です。

人々の自然との共生の姿、自分とは違う視点からとらえた発見、世界のさまざまな文化や歴史、ことばの魅力など、単に話題を紹介するだけに留まらず、課末の「Think!」のコーナーでは、フィンランド方式の読み方も体験しながら、さらに内容を深く掘り下げることも可能な題材となっています。

●文法事項について

『VISTAⅠ』では英検3級程度の力を定着させ、『VISTAⅡ』ではそれ以上の力を身に付けることを目指しています。往々にして文法事項は、一つの課の一つのセクションでたった一度扱われる以外、復習の機会がない教科書もあります。『VISTA』では、『Ⅰ』『Ⅱ』を通して必ず前課で扱った文法事項は、次の課でも本文で用いて復習の機会を作っています。

『Ⅰ』のPart 1では、文法の基礎であるbe動詞、一般動詞、疑問文、現在進行形、過去形、助動詞を復習し、Part 2ではSVO・SVOO・SVOC、不定詞、動名詞、現在完了形、受け身、関係代名詞、関係副詞、形式主語、分詞構文、仮定法過去を扱います。「コミュニケーション英語Ⅰ」が学習指導要領で必修科目に指定されたため、高校で学ぶべき文法事項は『Ⅰ』に全て含まれていることになります。

繰り返しになりますが、『VISTA』は、基礎・基本を固めることを高等学校での英語学習の第一歩と考えています。そこで、ことばの規則を学ぶために各課の最後にある「STUDY IT!」のコーナーは、説明が過多にならないように、できるだけ基本に絞って解説してあります。基本の説明が理解できたかどうかは、「DRILL」で確認します。ご指導の先生方には、こうした活動の中から適宜必要なものを選択してご活用頂きたいと思います。「STUDY IT!」の狙いは、生徒に「できた!」「わかった!」という成功感を持ってもらうことです。

また、学んだ文法の最重要ポイントを何点かずつまとめて確認できるように、文法のまとめのコーナーを「Look and Learn」として、各課とは別割りで置きました。ここでは、そこまでに学んだ文法構造等をまとめて、総合的に学ぶことができます。

●言語活動について

各課で学習する文法事項を中心とした言語活動は、本文の最後にある「PRACTICE!」で扱います。

はじめの第1問はlisteningです。ターゲットの文法事項が使われている簡単な英語の対話を聞きながら解答します。ちなみに問題の英文を確認したい場合には、テキストの巻末に英文が掲載されています。易しい英語でまとめられていますので、readingに加えてspeakingやwritingの産出活動にもぜひご利用ください。

続く第2問以降も、その課の文法事項が焦点です。問題の指示文には、例えば「対話してみよう」とか「書いてみよう」などとありますが、もちろん、生徒のレベルや必要性に合わせて、指示以外のスキルの練習にも使っていただければ、より学習の定着を図ることができるでしょう。英語で対話して、話すこと、聞くことを練習し、次にペアーごとにそれを一枚の紙に書き、互いに書かれた英文を読み合っって誤りのチェックをすることもできます。英語で書くことをまず行った場合には、同じ言語材料を用いて、書いたものを見ずにペアーで話したり聞いたりする練習を加えれば、4技能を統合した活動となるでしょう。

「PRACTICE!」とは別に、「USE ENGLISH!」「ENJOY COMMUNICATION!」「READING SKILL」の言語活動コーナーもあります。

「USE ENGLISH!」では、例えば、説明する、ほめる、主張する、などのように、文法には関係なく言語の機能に注目して、特にspeakingやwritingの産出活動の練習を行います。ここでは、自分の気持ちや考えを伝えるために、英語を発話したり書いたりする練習を通して、特に、それぞれの言語の機能を達成するために用いられる慣用表現を使えるようにすることを目的としています。

「ENJOY COMMUNICATION!」も、文法に焦点を置いたコーナーではありませんが、ここでは言語の機能ではなく、例えば、レストラン、買い物、道案内などの場面別によく用いられる会話の練習を、慣用表現を中心に学びます。短い時間でも行える基本的なコミュニケーションの練習ですから、授業の導入時や次の話題に移る前など、頭の切り替えをしたい時などにも活用していただくことをお勧めします。

「READIGN SKILL」は文字通り、英文の意味を読み取るためのコツをまとめたコーナーです。ここで

は、英文を読む際に、パズルのように単語の意味を拾って、それらを勝手に繋ぎ合わせて発信者の伝えたいことを推測するのではなく、文の基本構成(何がどうした)、文をつなぐ語や語句のかたまり、などに留意して、パラグラフ単位、また、それ以上の少しまとまった文章が伝える内容を、適切にとらえるコツを学びます。

このように、『VISTA』では基本的な4技能をさまざまな方法で身につけることができるように工夫をしています。そして、単にlistening、speaking、reading、writingの4技能をバラバラに練習するだけに終わらず、それらを統合した基礎的な力を、生徒のレベルに合わせて身に付けてもらうことを目指しています。こうすることで、次第に4技能プラス1、つまり、「人とコミュニケーションを行うことへの興味」を持ってもらうことが大切だと考えています。

●語彙学習について

テキストの本文や文法解説の例文に加えて、活動を行う各課末の「USE ENGLISH!」で使われる機能表現についても、同じ表現でも、もっといろいろな表現が欲しいと思われる先生方も多いことでしょう。それにお応えして、現行版と同様に、「USE ENGLISH!」の表現集を巻末に掲載してあります。本文では使われていない新出単語も入れましたので、ここを活用していただくことで語彙を増やすことにもつながります。

改訂版には、さらに語彙に興味を持ってもらうための新しい工夫を加えました。それは各課のセクションごとに語彙を一つ取り出して、その語に関する豆知識を提示したことです。語彙力は「英語がわかる」ためには特に重要です。語彙力には、意味は知っているが適切に使うことはできない受容語彙と、意味を知っていて適切に使うことのできる発表語彙の2種類があります。その両方の力を付けるためにも、まずは最低限、その単語の意味が分かること、つまり受容語彙を増やすことが大切です。とは言っても、必要な単語の意味をすべて丸暗記して記憶に留めることは、たいへん難しいことです。自ら何かに「気づく」ことが、学習には欠かせないからです。英文の構造や慣用句の学習に関しても同様のことが言えるでしょう。英語のインプットをさまざまに受ける中で、「へー、そうなんだ」と思うようなことがない

と、いくら英語を聞いたり読んだりしても、ただ頭の中を通り過ぎるだけで記憶として残らず、学習が起りにくいと考えられています。こうした観点から、より語彙への関心を持ってもらうために、「WORD WATCH」のコーナーを新設しました。このコーナーの目的は、英単語への「気づき」を促すことです。語源や日本語化したカタカナ語との意味の違いなど、「へー」と思うような短くて簡単な解説を楽しんでもらえることを期待しています。

おわりに

文部科学省は、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境作りを進める中で、小中高등학교を通じた英語教育改革を計画的に進めるため、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を平成25年12月に発表しています。その骨子は、小・中・高の一貫した学習到達目標を設定して、英語によるコミュニケーション能力を確実に養うこと、そして、日本の伝統文化・歴史を重視した、日本人としてのアイデンティティに関する教育を充実することです。コミュニケーション能力を養う方策として、英語で教えることも始められています。しかし授業では、先生方のご指導を生徒に正確に理解してもらうことが必須ですから、まずは、すべての指導をすぐに英語で行うよりは、定型表現を使いながら、少しずつ英語での指導を増やして行くことが得策だと思います。『VISTA』で学ぶ生徒には、日本語を少し交えてでも、伝え合うこと、コミュニケーションを取ることの楽しさを知ってほしいと考えています。

また、「文部科学省教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」(平成27年8月)では、外国語で育成すべき資質・能力の「三つの柱」とし

て、①何を知っているのか、何ができるのか(個別の知識・技能)、②知っていること・できることをどう使うのか(思考力・判断力・表現力等)、③どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るのか(学びに向かう力・人間性等)、を挙げています。これからの英語教育は「何を教えるか」だけでなく、「生徒がどのように学ぶか」「どのような力が生徒の身につく、その力をどのように使うのか」を問いながら進めていくことになるでしょう。

日本とは異質な文化や言語、そしてまた、そこに住む人々の生活や考え方に対する抱擁力をつけることは、日本の若者の心をグローバル化することに繋がります。その第一歩は、外国語である英語への抵抗感を無くすことではないでしょうか。

週に5、6時間の授業だけで、すべての生徒が学習指導要領にある事項をマスターすることは至難の技です。授業では、英語学習への取り組み方や英語の基礎・基本をしっかり学び、授業外でも、生徒が予習・復習に加えて英語に触れる時間を自主的に持てる仕組みが欲しいものです。ショック療法的に、英語でしかコミュニケーションがとれない近隣の英語話者の方や留学生等を招いて、交流プログラムを授業の一環として経験してもらうことなども効果的かもしれません。どのような方法を取るにしても、生徒たちが英語学習に興味を持ち、成功体験を積んで、「やれば自分にもできる」という自信を持ちながら、自発的に英語を学んでくれるような授業運営が大切です。

『VISTA』で学ぶ生徒の英語力の幅は、かなり広いのが現状です。生徒の英語力の発達に応じて、先生方が様々に味付けをしていただける教科書として、改訂版の『VISTA English Communication I New Edition』をご活用いただければ大変嬉しく思います。

